

1、 学校の状況と地域の実態

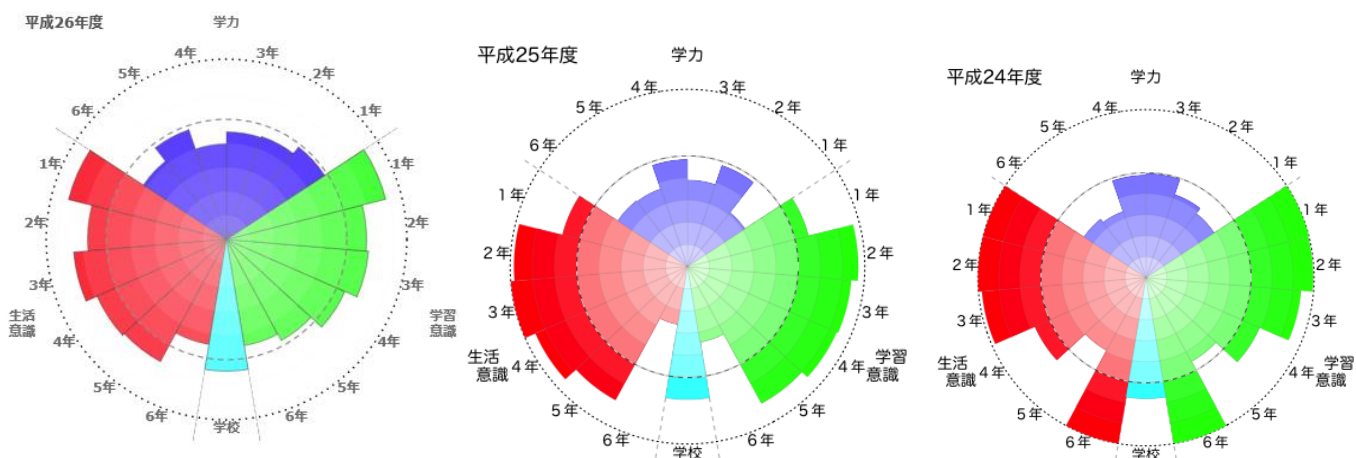
- (1) 素直で、あいさつがよくできる。朝会や集会での態度も非常によく、単級の良さを生かした縦割り活動がさかんである。
- (2) 地域的に穏やかで、お年寄りも多く、学習よりも人とのつながりを大事にする家庭が多い。塾に行っている子も少なく、6年生も、受験する子はほとんどいない。
- (3) 地域との結びつきが強く、地域全体で子どもたちを育てている感覚がある。
- (4) 基礎学力をつけるために、教員一人ひとりが授業改善に向けて意欲的に取り組んでいるが、既習事項を活かしたり、活用したりする力をさらにつけていく必要がある。

2、 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 言語活動の充実を中心に、学習したことをもとに、相手意識や目的意識を明確にもって、自分の考えを表現する思考力、判断力、表現力を育成します。とりわけ、算数科の授業をより充実させることで、どの子にも既習事項を生かし、生き生きと学習を進める子を育成し、市学力・学習状況調査の標準得点が市の平均を上回るようにします。
- 一人ひとりの特性や能力に応じたきめ細やかな授業ができる指導力が身についています。
- 家庭との連携により、子どもの自尊感情ややる気をさらに育て、生活意識及び学習意識がどの学年でも市の平均を大きく上回っているようにします。
- 家庭との連携により、学校で学習したことを家庭でもしっかり復習する習慣を身につけられるよう、意識啓発と環境整備を呼びかけ、それに伴い学力の向上を図っていきます。

3、 横浜市学力学習調査等から26年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学力は、1・5年がほぼ市平均、その他の学年は平均を下回っているものの、24年度25年度に比べると学力が伸びている様子がわかる。また、学習意識や生活意識では、市の平均よりかなり高い学年が多い。子どものやる気はあるので、それを学力向上につなげたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語：学力では1年の「言語」「読むこと」 2年の「書くこと」 3年の「言語」 4年の「話すことと聞くこと」「言語」は市の平均並みだが、それ以外の観点では、市の平均を下回っている。しかし国語に対する意識は、6年を除いて市の平均を上回っている。
- 社会：5年の「技能」はほぼ平均並み、それ以外の観点では市の平均を下回っている。しかし社会に対する意識は、5年を除いて市の平均を上回っている。
- 算数：2年の「技能」 5年の「技能」「数学的思考方」は市の平均をやや上回った。1年の「知識・理解」「技能」「数学的思考方」 5年の「知識・理解」は平均並み、それ以外は市の平均をかなり

下回った。例年「数学的な考え方」が弱かったが、5年は伸びてきている。算数に対する意識は、1・2・3年では市の平均を大きく上回っている。

○理科：5年の「知識・理解」はやや市の平均を上回り、5年「技能」6年「知識・理解」は平均並みそれ以外は市の平均を下回った。しかし、理科に対する意識は、5年を除いて市の平均を上回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体的に、学力はやや伸びてきている。学習意識は学年が低いほど、市の平均と比べて高い。「算数の授業で自分の考えを發表している」「算数科の授業で新しいきまりを勉強する時、どうしてそうなるかを考えるようにしている」と答える割合が、6年を除けば市の平均を上回っていることは、昨年度の重点研の成果といえるであろう。

4、平成27年度 目標と具体的方策

研究テーマ 既習事項を生かし、生き生きと学習を進める子の育成
～算数的活動を通して、わかる喜びを実感できる授業のありかた～

(1) 学校組織としての共通の取り組み

○個に応じた指導・支援

一人ひとりの学力の実態を把握し、ワークシートやヒントカードなどを使いながら、個に応じた指導・支援を繰り返すことで分かったという喜びを実感させ、基礎基本を身に付けさせるようにする。

○教室環境の整備

既習事項が生かしやすいように、教室環境を工夫する。

○教材研究の時間の確保

子どもたちにわかる授業をするために、教材研究の時間を十分に確保する。

○家庭学習の習慣化

家庭と連携し、各学年や家庭の実態に合わせて宿題を、定期的に出し、家庭学習を習慣化する。

(2) 学年・教科等としての取り組み

○基礎的・基本的学力の定着

1 学年

○文字や計算、音読などの練習を反復すると共に、それを学習や普段の生活の中で活用する場面を多くとり、定着を図る。
○分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度・言葉で表したりしながら対話する。

3 学年

○算数では3年生から始まるわり算を中心に、また漢字や音読でも授業での練習や家庭学習を通して定着を目指していく。
○相手や目的に応じて理由や事例を挙げ、筋道を立てながら文章を書いたり話し合ったりする。

5 学年

○音読・計算・漢字練習を繰り返す行くと共に、各教科・領域で問題解決的な学習の流れをできる限り大切に、基礎・基本がより確実に身に付くようにする。
○自分の目的や意図に応じて話し、相手の意図を聞きとって話し合う場面を設定する。
○事実と感想、意見などを分け、目的や意図に応じて、文章を書いたり話し合ったりする。

2 学年

○音読・漢字練習・計算を繰り返す行い、基礎・基本の定着を目指していく。また、算数では具体物の操作や日常生活との関連を図りながらわかる授業を目指していく。
○経験したこと・観察したことなど、順序に沿って話したり書いたりする。

4 学年

○算数では、基礎・基本の定着のため計算練習に取り組み、計算力の向上を目指す。また漢字や音読でも授業での練習や家庭学習を通して定着を目指していく。
○話の中心を意識して話したり聞き取ったりし、自分の経験と結びつけたり比較したりしながら意見を述べ、話し合いをする。

6 学年

○音読・計算・漢字練習を繰り返す行いとともに、各教科・領域等で問題解決的な学習の流れをできる限り大切に、基礎・基本がより確実に身に付くようにする。
○今までに身に付けた文章を書く力や話し合う力を、教科等の学習で生かすことができる場面を多く設定する。

個別支援学級

○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を行う場面を設けるようにする。
○子どもに応じた分かりやすい言語環境を整えるようにする。
○各学年の取り組みを参考にし、発達段階に応じた支援を行うようにする。